

令和6年度 第3回石狩市浜益区地域協議会議事録

【日 時】 令和6年 8月 8日（木）18：00～19：37

【場 所】 石狩市浜益支所2階 庁議室

【資 料】

- 1）会議次第
- 2）厚田区及び浜益区の学校給食の今後の提供方法について（説明会等の実施報告）
- 3）いま地域協議会が持っている機能や役割
- 4）石狩市、厚田郡厚田村及び浜益郡浜益村の配置分合に伴う地域自治区及び区長の設置に関する協議書
- 5）令和6年度地域おこし協力隊募集ミッション案
- 6）「2024 荘内藩ハマシケ陣屋プロジェクト」報告

【出席者】 10名（14名中）

役職	氏 名	出欠	役職	氏 名	出欠	役職	氏 名	出欠
委員	渡邊 隆之	○	委員	渡邊 真奈美	○	委員	細田 幸男	○
委員	木村 武彦	○	委員	羽立 裕子		委員	鬼塚 建次	○
委員	岡本 俊介		委員	坂本 賢哉		委員	柿岡 奈々絵	○
委員	鳴海 翔	○	委員	笹森 仁美	○	委員	久慈 麻結	
委員	佐藤 晃一	○	委員	徳地 克実	○			

（支 所） 高橋支所長、柿崎市民福祉課長（併 浜益学校教育課長、浜益社会教育課長）
伊藤市民福祉課保健福祉担当課長（兼 はまます保育園長、浜益国保診療所庶務課長）
（本 庁） 高石学校給食センター長
（事務局） 木澤課長、佐藤主査、川村主査
（集落支援員） 川村集落支援員

【傍聴者】 1 名

【会議次第】

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 報告事項
 - ・厚田区及び浜益区の学校給食の今後の提供方法について（説明会等の実施報告）
 - ・地域協議会の今後のあり方について
- 4 協議事項
 - ・令和6年度地域おこし協力隊の再募集について
- 5 その他
- 6 次回の開催日程について
- 7 閉 会

1 開 会

【木澤課長】

ただ今から令和6年度第3回浜益区地域協議会を開会いたします。
初めに会長からご挨拶をいただきます。

2 会長あいさつ

【渡邊会長】

— 会長あいさつ —

【木澤課長】

それでは、会議を進めさせていただきます。なお、本日の会議は、出席委員が14名中10名と過半数に達していますので、成立していることをご報告いたします。

3 報告事項

【渡邊会長】

報告事項に入ります。報告事項の1つ目、厚田区および浜益区の学校給食の今後の提供方法について（説明会等の実施報告）について、石狩市教育委員会学校教育部学校給食センター 高石センター長より説明をお願いいたします。

【高石センター長】

本件につきまして、浜益区地域教育議会では6月20日の第1回浜益区地域協議会にて、保護者説明会等のスケジュールを説明させていただきました。この度、厚田区も含めて保護者等への説明会を数回にわたり行いましたことから、その報告させていただきたく思います。

お手元の資料をご覧ください。

— 資料に基づいて説明 —

【渡邊会長】

ただいま学校給食センター 高石センター長から説明をいただきました。この場で確認しておきたいことや 改めてご意見、ご質問等ございませんか。

【徳地委員】

食器が使いづらいという意見が結構あるけど、どのようなものを使っていますか。割れそうなものですか？

【高石センター長】

家庭で使っている磁器食器、ちょっと重めのごはん茶碗をイメージしていただければと思います。

今現在、厚田センターでは、プラスチック系のメラミン食器を使っています、比較的軽く、割れにくい特徴があります。強化磁器食器は割れやすいのですが、割れやすいが故に大事に扱うこと、温度を感じやすい、食育に関するメリットを考えて導入したものです。

【徳地委員】

そのような導入の目的があれば良いと思います。

【高石センター長】

子どもたちは、食器がいきなり変わるということに対して戸惑いはあると思います。

【徳地委員】

意図したものがあるから良いと思います。

【鳴海委員】

こういうものだから、こうしなさいと説明すれば納得すると思います。割れやすいのは不安に感じていましたが、そのような意図があるのなら説明して理解してもらえばいいだけのことだと思います。良いと思います。

【渡邊委員】

うっかり割ってしまった時には予備の食器はありますか。

【高石センター長】

給食センターと、学校に予備の食器を配置して対応していくこととなります。

【細田委員】

中学生から食器が使いづらかったというのは、片付けの時に、今まではただ重ねて収納すれば良かったのですが、きちんと滑り出てこない収納の仕組みになっているがために、傾けながら入れ

なければならないという部分で使いづらい。更に、運ぶのが重いということを感じて、率直に使いづらかったと書いています。これは慣れが必要な部分だと思っています。

【鳴海委員】

自分たちが給食を食べていた時代に、そこまで子どもに寄り添ったものが無かったから、きちんと説明すればいいだけだと思います。

【徳地委員】

ちゃんとしたそういう考えがあって、あとは慣れるだけだと思います。

【渡邊会長】

あとは、割れた時の怪我等について十分注意して、学校の先生方の力も必要かと思っています。

【柿岡委員】

細かく割れる感じではなくて、強化磁器だから塊で割れる感じですよ。

【笹森委員】

年間どのくらい割れるものなのですか。

【高石センター長】

年間通して割れることはあります。子どもたちの目に触れる部分で割れることは相当少ないです。

【笹森委員】

気をつけていても落としてしまったら割れることもありますよね。

【高石センター長】

はい、やはり割れる材質なので割れます。

【笹森委員】

子どもたちに、これは壊れやすいんだよって説明すれば良いと思います。

【高石センター長】

今、検討している段階なのですが、正式な導入開始となる際には、学校、先生方も含めまして改めて、食育という観点でご説明させていただきたいと考えています。

【渡邊会長】

温かくておいしい、安心、安全な給食の提供と、今までの食器よりも家庭に近づいた食事となると思うので、良いと思います。

あとは、慣れるまで先生方の労力が必要であり、大変さも出てくると思います。

小学校から何かご意見等ございますか。

【鬼塚委員】

小学校は先生方が手伝っていますので、子どもたちの実感としては食器が重いと感じているようですが、注意しながら強化磁器食器を使うメリットを伝えながら良いのではないかと思います。

【柿岡委員】

食器の割れや、欠けることとの頻度ってどのくらいありますか。

【高石センター長】

統計データを用意しておりませんので正確な数字ではございませんが、洗浄段階で割れたり、欠けたりするものは、チェックして次の給食までに取り除いています。ただ、配送によって学校に到着するまでに割れたり、学校で割れたりするケースもあります。配送で割れるケースで言うと、旧石狩市域で年に2、3件くらいと記憶しています。片付けの段階で落として割れてしまうケースを含めると、もう少し増えるとは思いますが。

【柿岡委員】

石狩のセンターから厚田学園まで運んで、そこから浜益に運んで来ますよね。同時に作って、一緒に運んでくる。若干、浜益の分は出来立て感が少なくなりますか。

【高石センター長】

それについては、厚田で給食を降ろす作業時間はそれほどかかりません。おおむね1分少々くらいです。机上の計算では3分を見込んでいます。現状、厚田も浜益も出来上がり時間は同じです。

【渡邊会長】

今年4月の実証実験では、そういった形で行ったんですよね。

【高石センター長】

はい、そうです。ただ、実際に降ろす作業はしていないので、給食搬入口に車を止めて、荷降ろしの想定時間を待機して、浜益に向かう実験を行いました。浜益までの運搬の想定時間は1時間10分から15分程度と見込んでいます。

【渡邊会長】

他に心配されることはございませんか。それでは他に無いようですのでここで終わりたいと思います。

続きまして報告事項２、地域協議会の今後のあり方について木澤課長より説明をお願いします。

【木澤課長】

この件に関しては、本庁企画課厚田浜益担当より説明をいただく予定でしたが、本日、他の用務により出席が叶わない事から、代わりまして私より説明いたします。

昨年１０月の諮問から協議会の皆様には熱心なご議論、また地域説明会の開催など、今後の地域のあり方についてご検討いただきまして、先月の２日に答申書を市長に渡すことができました。誠にありがとうございました。

いただきました答申をもとに、地域自治区の設置期限を迎える令和８年度へ向けて、準備が進められることとなります。

以前、市より示されていましてスケジュールのとおり、本年度の残り９ヶ月を使いまして具体的な方策の検討が行われる予定でございます。

そして、来年度の令和７年度につきましては、具体的な組織作りですとか、議会の議決が必要なものは議会の議決を、国への届け出やその他手続きが執り行われます。その他に必要な住民や関係機関への周知、これらを本庁と連携し、丁寧に行ってまいりたいと思っています。

今後、地域協議会に代わる組織について、支所の機能について、それから住所表示について、この３つについて具体的な検討が行なわれてまいります。皆様にもご検討をいただきたい事項がございますので、その点について説明を申し上げます。

ご検討いただきたいのは、地域協議会に変わる組織についてであります。現在の地域協議会の仕組みをベースにしてご検討をいただきたいのですが、お配りした資料「合併協議書」がありますが、合併の際に作られた条例です。この第６条から地域協議会の組織について、第８条には、地域協議会の審議事項について書かれております。

地域協議会の権限につきましては、地方自治法２０２条の７に規定されておまして、事務局が所掌する事務に関する事項、市町村が処理する地域自治区に係る事務に関する事項、住民との連携強化に関する事、それから条例の第８条にございます市町村の施策に関する重要事項のことが書かれており、これについては決定、変更しようとするときには、必ず地域協議会に意見を聞かなければならないと地方自治法に規定されておまして、市町村長はこれらの意見を勘案して適切な措置を講じなければならぬとされております。したがって、協議書の第８条に記載されている重要事項とは、新市建設計画に関する事項、過疎計画に関する事項、基金の使い方、これら３つのことについて、変更や策定をするときには、必ず地域協議会の意見を聞かなければならないとされております。

今ご説明申し上げました地域協議会の仕組みをベースに、権限につきましては、市の方ではそのまま残すことを検討されております。これまでと同様の権限を持ちながら、構成員の皆様に過度の負担がなく、持続可能で効率的、実効的な協議会について、構成員や会の運営方法等について、委員の皆様と検討を重ねてまいりたいと考えております。

新しい組織の権限の付与につきましては、条例などの規定の整備について、市の方で検討されることとなります。

今後も引き続き住民自治の推進を図るために、地域の実情に合わせて検討を重ねていきたいと考えております。本年度中に一定の方向性を示していきたいと存じますので、どうぞよろしくお願いいたします。

また、答申をいただきました残りの２点、支所の機能と住所表示につきましては、その実現に向けて検討が進められてまいります。その状況につきましては、年度内に皆様にご報告をさせていただく予定となっております。

説明は以上です。

【渡邊会長】

ただいま木澤課長から、今後の地域協議会に代わる組織のあり方について、具体的な検討についての説明がございました。その中で何か質問等ございますか。

【細田委員】

第８条（２）のところですが、合併協議書と配布されているもう１枚の資料の中で、過疎地域自立促進計画と過疎地域持続的発展計画と書かれているのですが、どちらが正しい表記ですか。

【木澤課長】

こちらについては、法律に基づいて作成されている計画でありまして、合併協議書から現在の資料のように法律に基づいて名称が変わっているものです。

【柿崎課長】

時限立法で、10年単位で変わっています。その度に名称が少しずつ変わっています。

【細田委員】

今現在は、過疎地域自立促進計画ということでよろしいんですね。

【木澤課長】

いえ、現在は過疎地域持続的発展市町村計画となっています。

【徳地委員】

地域協議会に代わる組織の在り方、今後、答申も出したし、それに伴って色々と進んでいくとは思いますが、それよりも、今後の浜益の在り方について実際ちゃんと考えていかなければいけないのではないかと考えております。

ただの地域協議会に代わる組織ができるだけではなく、今後、よく集まるといふか声の大きい人だけではなく、全住民が参加するような感じで対話の場が必要ではないのかなと思うのですが。そういったことの企画に関して、わかもん会としても色々と関わっていきたいなと思っているんですがどうでしょうか。

【事務局】

地域協議会の本年度の予算に今後の地域の在り方について考える講習や、話し合いの仕方等を学ぶ、年4回ほどの機会を設けようという目的で用意しています。

また、行政側で様々考えている中で、区民の皆さんが自由に色々発言できる場として、どういう手法がいいのかと迷っているところがあり、今、徳地委員からご発言があったとおり、多くの住民の方々が、これからの浜益に関心を持って話し合いをし、一緒の方向を向いていければと思い、地域協議会の予算ですが、委員の皆さんの了承が得られるのであれば、わかもん会に関わっていただいて協力して進めていければと思います。この場にも各団体の代表の方も集まっていますし、浜益で一丸となって、対話の場を作っていければと思うのですが、いかがでしょうか。

【徳地委員】

ちょっと補足しますが、浜益の今後のあり方について支所から相談されました。色々なことをどう進めていきたいと思いますかみたいな形で。

そこで、対話の場は絶対必要だよねと。色々な意見を言い合う場。この間の説明会とか色々な意見が出てきたし、対話の場は今後も絶対必要になってくると思ったんですが、そこに関して行政主導だと、今までと変わらないんじゃないかという意見を私から出しました。

そこで、わかもん会が企画、運営から関わるといふ話が出まして、その予算についての情報があり、わかもん会が支所と連携しながら、予算を活用しませんかという話が出てきたんです。

【渡邊会長】

その詳しい話っていうのはどのようになっていますか。

【事務局】

詳細は今後詰めていくことになりますので、今説明できる内容はまだ無いんですけど、

【徳地委員】

そういうことなら、わかもん会で動くよっていうことです。

【渡邊会長】

もし何か、ある程度具体的な方向性が見えているのであれば説明をお願いします。

【事務局】

私たちも説明会を経験して、行政側の色が出てしまうと、不満や不安が色々出てくることが多い。そういうものじゃなくて、これからの浜益をみんなで考えるような手法等について悩んでいる時に、わかもん会に相談したところ、住民同士の対話の場が必要で、行政色を出さずに行うならわかもん会が動けるよという提案をいただいて、その方向性で進めるにはどうしたらいいのかというところで、今の企画を進める前段階で、それぞれ住民の話を聞きながら、これからの浜益を考える言葉を拾って行って、講師を呼ぶ実際の機会までに、浜益の機運を高めることが必要だろうというところまでは打ち合わせをしているところです。

【柿崎課長】

私が平成6年に浜益村役場に奉職する前までは、浜益で言うとトピア交流会というのが毎年、団体の人たちとかを集めて、浜益の未来を語ろうみたいなのをやっていたんですよ。

【渡邊会長】

色々な団体から出てきて、職員は書記と司会をやっていた覚えがあります。

【柿崎課長】

自由に意見を言い合って、未来を話し合おうという会があったんですけど、そういった部分の議論の場ってというのは今までなかったの、それをわかもん会がやりたいと。

【徳地委員】

運営、企画やみんなへの声かけあたりからやりたいと思ったんですが、協議会の予算があるということで、ここで皆さんの了承が得られるなら、やってみようと思っています。

【渡邊会長】

そうですね、行政主導であれば、かしこまってしまう部分や、本音と言えるかどうか、用語が難しいようなイメージなど色々な面で自由に語り合うことが難しいと思うので、わかもん会とか地域の方々に音頭を取っていただいて進めていってもらえれば、それが1番良いのかなと思います。

今、これからの浜益を担っていかきゃないのは、当然お年寄りも当然その中に入っていかなきゃならないですけども、若い人々が中心になりながら、あとは中年、シニア、子ども達も含めて、全員で考えていければと思います。

今のお話ですけど、委員の皆さんどうでしょうか。そういった方向で進めていってもらうのが良いと思いませんか。提案のように進めていってもらってよろしいですか。

【柿崎課長】

予算は行政が持つから、企画、運営はわかもん会が行うということですね。

【徳地委員】

そう、企画の中身や声掛けとかはわかもん会が動く形で、支所との連携、協議会との連携をしておきたいということです。

【渡邊会長】

行政に誘導されることないようにということですね。

【徳地委員】

そうです。行政が主導したら、かしこまった感じになると思うんですよ。そうじゃない、普通にみんなが話せる形で進めたいと思います。

【渡邊会長】

いいですね。そういった形で進めていってもらうこととしてよろしいですか。もしまた具体的な中身が出てきたら、その場でまた説明してもらえるとということでよろしいですね。

— 一同了承 —

元の議題に戻りますが、これから地域協議会の構成員、それから協議会の運営方法等について、まとめていかなきゃならないと思います。あくまでもベースとしては、これまでの地域協議会の仕組みをそのまま残すという形で、権限については今までと同様の権限を条例で規定していただく方向で市も考えているということです。

ほぼ、今の地域協議会の形がそのまま残ると書かれています。ですけど、やっぱり1番足りないのは、そこまでに上がってくるいろんな様々な意見だとか、思いだとか、地域の人の考えとか、そういった、実働部隊のような下部組織だとか、そういった部分も併せて検討していかなきゃいけないのかなって思います。

だから、これまでの地域協議会の仕組みを残していくのは良いんですけども、それをさらに地域の意見を吸い上げるためには、地域協議会に縛られることなく、自由な発想の中で進めていける、そういった組織というか、任意の組織の検討も必要だと思います。

それらも一緒に併せて考えていければということで。今後の具体的なその進め方について、事務局、原案というかたたき台を作成いただいて、協議会で議論し、その中でまた違った意見があれば違った方法で、どんどん意見を出してもらって、より地域に密着した形を作り上げていければ良いと思っています。

今後の進め方ですけど、よろしいでしょうか。何かもっと、ご意見等ございましたら出していただければと思います。

よろしいですか。今日は、その方向性について皆さんの意見というか了承を得てから、これから進めていかなければならないと思いますがよろしいですか。

— 一同了承 —

4 協議事項

【渡邊会長】

それでは、次に協議事項、令和6年度の地域おこし協力隊の再募集について、今まで募集しましたが、なかなか見つからないということで、再募集について計画をしておりますので、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

令和6年度地域おこし協力隊ミッション案についてです。本年4月採用の募集については応募が無かったことから、協力隊の募集にあたって、協力隊に取り組んで欲しいこと、協力隊が浜益でやりたいことをイメージできることが無いと興味を引く募集にはならないこと。また、浜益で暮らすイメージが魅力的に感じられることによって、3年間の協力隊生活が充実し、より定住へ向けた効果があるのではないかと考えました。

ミッション案の資料をご覧ください。募集にあたって、協力隊に取り組んで欲しいこととして、地域資源を活用。こちらは起業・就業・継業へ向けた活動として、浜益に不足している事に取り組み、地域課題解決の一翼を担っていただくとともに、卒業後の収入の柱となることを見つけて修行を重ねるものと考えています。

また、協力隊が浜益でやりたいこととして、得意分野で発揮、自分の得意を活かした活動。こちらは、経験や資格を生かして活動していただくことで、浜益の暮らしを豊かにしていくことができればと考えています。

協力隊卒業後、浜益で自立して生活するイメージが必要。ということで、3点挙げてみました。
①キーワードは起業・就業・継業。②地域資源の活用と得意分野での活動を組み合わせ、地域ニーズと応募者のやりたいことを形にできる体制の構築。③浜益で暮らす魅力を感じ、移住を決断して浜益に来るため、地域との繋がりを作ることの大切さを感じてもらうこと。この3つが必要と考えています。

その中で、起業は応募者の経験や資格等によってなされるものと思いますが、就業や継業について、浜ワークに協力を仰ぎ、浜益での就業・継業をイメージするための研修ができたかと考えています。また、地域との繋がりを作っていくにあたり、各委員のお力添えにより、地域との繋がりを作る機会を設けさせていただいて、浜益全体で迎え入れられるようにしたいと考えています。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

最後に、募集スケジュール等についてです。今回の募集については、9月から12月を想定しております。それ以降の募集については、新年度採用の募集となるためです。

募集告知については、資料のとおり様々な媒体を想定しています。

また、12月7日に東京ビックサイトで開催されるJOIN主催の移住・交流フェアに出展し浜益のPRと応募者探しを行ってまいります。

新年度の募集についても地域のニーズに合わせ、将来像の見える化とサポート体制の構築を目指して取り組んで参りたいと考えています。

私からは以上です。

【渡邊会長】

ただいま事務局から、今年度の地域おこし協力隊の再募集についての説明がありました。これについて何か質問やご意見等がございますでしょうか。

【柿岡委員】

卒業後のキーワードとして、起業・就業・継行ってあって、具体的な内容を色々書いてあるんですけど、ここの具体的な内容についての、卒業後じゃなくても協力隊の活動中、もしくは卒業後についてのシミュレーションや、関係事業者との根回しとかっていうのは、まだされていないですね。

【事務局】

はい、現状ではまだできていないです。

【柿岡委員】

それもやれていない状態でここまで謳ってしまうのは、まったく中身が無く、夢を語っているだけなので。これを見て、実際応募がありました、来たらこれから準備しますっていう状態のところ本当に協力隊として魅力を感じて活動してくれるのかというのが、甚だ疑問ではありますという元協力隊の意見です。

【事務局】

ありがとうございます。

【鳴海委員】

逆に何か意見は無いんですか。協力隊にこういうことをして欲しいって。

【事務局】

どこもかしこも人が足りないという根本がありますが、実際に今現在の段階で、就業、継業に関して 市から直接、例えばここは跡継ぎいませんかとか、ここの人手が足りないから3年間修業させて、そこから先就職できる場所はありませんかという呼びかけに関しては、全く今、恥ずかしながらノータッチの部分ではあります。

ただ現実として、そこまでイメージができない、それだけの保証ができないと、地域おこし協力隊として募集をするのは無責任じゃないかっていうご意見だったと思うんです。その中で浜ワークに相談をさせていただいた部分がありまして、実際、今各事業者さんと繋がっていただいて、一産業業や食堂とかも含めて色々な産業と繋がっていただいている浜ワークで、研修の機会を設けさせていただいたりとか、実際もうこれ1本でやりたいっていう意図があるのであれば、その繋ぎの部分のご協力をいただくこと。それから、全く今まで浜ワークの参画事業者ではなかったところに関しては、浜ワークとご協力させていただきながら、そこに呼びかけをするとともに、つなぎの役割を担っていただきたいということをお願いしたところではあります。

それによって、実際に浜益で足りない部分の人材確保に関して、応募してきた方がやりたいところ、そして自分に合ったところを見つけていただいて、浜益に定住して生活していけるスタイルが出来上がれば1番いいのかなと思っています。

やはり支所としても、喫緊の課題として耳に入ってきているような、うちの跡継ぎを探してるんだとか、ここで働きたい人。例えば、きむら果樹園さんだったりとか、浜益モータースさんだったりとかという部分でお声がかかれば、そういう募集も含めて、そういう特性を持った資格を持った方の採用に動くということも考えたいと思っています。

【鳴海委員】

そこからじゃないですか。欲しいところだったら自営だから。なんせ人がいなくて困っているんだから。

【徳地委員】

これについて、浜ワークに人をよこせと言ったのは、浜ワークの職員ではないから、シフトに組み入れて面倒を見ていても、浜ワークの参画事業者以外での活動も全然問題ない。浜ワークで面倒を見つつ、色々な興味のあるところも回しつつ活動ができるからよこせと言ったの。

【鳴海委員】

浜ワークに来ちゃったらただのアルバイトになるでしょ。基本的には。ちょっとやってみたいだけみたいな。

【徳地委員】

イメージ的には、最初の3ヶ月ぐらいは浜益の地域に馴染むというミッションを入れてくるから、うちで働かせつつ、色々なところを経験して、馴染ませて、慣れてきたら、自分のやりたいところとか、例えばハンターやジビエ料理なり、やりたいとか言うのであれば、やらせていくのが良いのかなと。

【鳴海委員】

そこからなのか。これが困っているっていうことを最初から謳った方が良いんじゃないの。そこからのサポートをするのが行政や地域協議会で、その中間をやるのが浜ワークなんじゃない。

だから、欲しい人材を募集した方が早くない。浜益全域で何かあるからさ。なあなあで、どこが働きやすいですかって、ちょっと農家やりたいですってなるよりも、最初からもうここが大変です、これ募集ですってやった方が、人が来るんじゃない。

【柿岡委員】

本当は、そうやってわかりやすいミッションがある方が良いと思う。

【鳴海委員】

良いよね。実際困っているじゃないですか、困っているところが多すぎですよ。

【柿岡委員】

ただ、今の状態で、ジビエをやりたいとかハンターをやりたいとかって来られても、受け皿もないし、そういうシステムも出来上がっていない状態だから、それを募集として謳うのは、夢と希望しかないんじゃないかって。現実的ではないんじゃないかと思っています。

【渡邊会長】

ただ、どこかの市町村で、その地域おこし協力隊がハンターとかの役目を担っているっていうのは目にしますが、仮に3年間終わればそれがどうなるのかって、そこまで情報が得られてないです。

【柿崎課長】

協力隊の制度としては、地元の困りごとと本人が望むこととのマッチングなので、選択肢としては広く持たないと手を挙げてくれる人もいないし、地元の困りごとだけで募集してもなかなか人は手を挙げてくれないということで良いですね。

【渡邊会長】

逆に狭めてしまえばどうなんだろうね。

【柿岡委員】

一長一短です。本当に色々なところからネタを拾ってきて、自分の先を決められるっていう長所もあるんだけど、私の同期の協力隊とかは、がっちり決められたミッションに惹かれて、それ1本で3年間活動しているっていうパターンもあるので、どちらのパターンもあるんですよ。

今、この資料の内容を見ると、あまりにもふわっとしていて、どこもかしこも人手が足りなくて、こういうことがありますよ、こういう人手不足はありますよとあるんだけど、探してやりたかったら、あとは自分でご自由にどうぞっていう無責任さは感じるんですよ。

さっきの浜ワークの話に戻るんだけど、私が協力隊に入ってきた時に1番に困ったのは、10月着任で入るっていうのが1番大変だったんですよ。浜ワークのようなものも無かったから、自力で、足で稼いで色々繋がっていった、シーズン開けた春先にやっと、色々な人たちと知り合いになって、ようやく少し動けるようになるっていう時間が結構かかったんですよ。

結局、地域と交わる最高の手段が、飲み会に参加するっていうことを選んだんですけど。

そうではなくて、浜ワークを通して、仕事等を通じて地域の方々と触れ合えるシステムみたいなのはあったらいいと思います。

【徳地委員】

そこで、半年くらい浜ワークで面倒見てくれというなら受け入れますよ。

【柿岡委員】

やってみて、卒業後に浜ワークに就職したいという希望があれば大歓迎ですよ。

【鳴海委員】

それじゃ、地域おこし協力隊じゃないでしょ。使い勝手のいい人材をただ採用するんじゃなくて、何かしないと。何かしないといけないことを明確にしないとだめじゃないの。とりあえず来て、何かしませんか、これもあります、あれもありますっていうのが強すぎてふわっとしていますよね。

サポートはサポートできちんとして、中間で地域との繋ぎというか、暮らしていくのに浜ワークで色々なところで働いてみてというよりも、本当はやりたいことがあってそれに向かって動いていく内容が良いと思います。

【柿岡委員】

最低限、ここにこうして書きだすのであれば、こういうことを選ばれたら、こういう手段を取らせることができるっていう、具体的なシミュレーション例みたいなのは、最低限作っておいた方が良いでしょうかなと思います。

【鳴海委員】

例えば、ジビエ料理で店を出したいとかならそこが最終目標で、とりあえず浜益に来て、場所がどこにあって、その間の繋ぎでもないけど、浜益はこんな感じですよみたいな。そして、働いてみたい方が良いでしょうかなと思います。

【柿岡委員】

これだと困っちゃう。

【鳴海委員】

ふわっとしすぎて、ただ困っているところに人を呼んで、馬が合ったら良いでしょうかなっていう感じ。

【柿岡委員】

それもね、出会いの一つなんだけどね。

【鳴海委員】

そうなんだけど、どうなるかわからない。

【事務局】

現時点で見える将来像をはっきりしたうえでのミッション設定というところで

【鳴海委員】

呼び込み方が、ただのアルバイトみたいな感じがしています。ふわふわしすぎている。

【事務局】

ふわふわしている部分を削除していったら、今現在で

【鳴海委員】

浜益はこれが困っていますとか。

【柿岡委員】

ミッションで具体的な内容って書きちゃうからおかしいんだよ。こんなことで困っていますとか。

【鳴海委員】

もっとわかりやすくしたらいいと思う。そこに向けて支援しますも入れてさ。

【徳地委員】

「例えばこんなこと」みたいな。

【柿岡委員】

だって、飲食店継行したいです。どこ行くのみたいな。

【鳴海委員】

来てすぐできるわけじゃないよね。これまであるものでやっていきますよみたいに入って。地域の例えば、タコとかに興味があれば追加しますみたいな。そうしていくうちに、こういうコンセプトでやりますっていうようになって行くんだからさ。

それで、自分でちょっと働いてみて、鮭なら郷土料理とかで飲食店が増えたり。

【徳地委員】

自分で漁をやりつつ、飲食店もやるようなこともあり得る。

【鳴海委員】

そっちの目線の方が良いと思う。

【柿岡委員】

ネタはこれだけいっぱいあるんだよっていうくらいにしておかないと、これだったらこういう道をきっちり選べるんだなって勘違いしちゃうんじゃないかなって思います。

【事務局】

皆さんからいただいたご意見を基に具体的な形で募集要項を定めていきたいと思います。

【渡邊会長】

他にありませんか。だけども、この地域資源を活用するという中で、起業・就業・継業に向けて、これ地元食材を活かした飲食業とか販売、それから地域飲食店の選択肢が減っているとか、食文化の継承や発掘、地場産品、地域の人手不足の解消を目指して、一次産業とか熊、鹿のハンターとか色々書いていますよね。

だから、これしかないんですよってことじゃなくて、本人がこんなこともやりたいんだけどっていうことであれば、それにも対応できるように、これに縛られることなく、柔軟に対応を、対処して対応していったら欲しいなとは思いますがね。

はじめはこれで募集したんだから、こんな中身しかダメだよってことじゃなくってことでしょ。だから、募集の内容は、これはこれで俺いいと思うんだけどな。中身としては。

【柿崎課長】

卒業後の選択イメージ入れないで、例えば例で真ん中だけ残してっていう感じで募集をかけるイメージで良いですか。

【柿岡委員】

あなたの未来は、あなたの選択肢次第なんだけど、こういう選択肢もあるよっていう形で、こういうところも選べるご提案、地域に溶け込む取っ掛かりとして、浜ワークっていう面白い組織があるので、浜ワークと連携して、浜ワークはこういう活動をしていますと知ってもらえばいいんじゃないかなと思います。

イメージがね、明るく楽しい、みんなが働ける職場ですって言っている就職情報誌と一緒に。いつも出ているやつ。

【高橋支所長】

起業は残しといっても良いかもしれないけど、就業とか継業については、ちょっと荷が重いっていうか。

【柿岡委員】

謳うんであれば、縁があればそこに就職でも継行でもすれば良いけれどもっていう感じ。

【高橋支所長】

他の自治体を見ると、あらかじめ企業を募集して継業というのものもあるけれども、うちはそこまでやっていないから。

【鳴海委員】

別々に募集した方が良いんじゃないの。きちんとしたやつと、ふわっとしたやつ。

【柿岡委員】

結局もう就業と継業の話は詰まっていないから。

【高橋支所長】

うん、だから起業だけにしといた方がいいのかっていう。

【徳地委員】

この話が詰めていないから、就業も誰にお願いするのか。継業も受け手のイメージがまず無いから。

【柿岡委員】

だから、キーワードじゃなく選択肢として、あなたの出会い次第で起業でも、就業でも、継業でも起業でもできるよって、様々な形はあるよっていうところではあると思うんだよね。

【鳴海委員】

確かにふわっとしている方が人は呼び込みやすいけど。

【渡邊委員】

単語の幅がでかすぎる。地元食材ってすごく広いでしょ。例えばこれが牛肉とか、果樹とかだったらまだ、果樹であればできるかなとか、これができるかなとかイメージしやすいけど。食育って言ったって、ふわっと大きいよね。じゃあ何となるから、そこを具体的に持って行かなきゃならないと思うし、活動のイメージができないかなと。販売拡大といっても何となるし。例えばどう拡大して欲しいと考えているとかさ。店頭での販売なのか、オンラインでの販売なのかイメージがしにくいです。

【鳴海委員】

地域おこしだからな。浜益のためになることをして欲しい。もうちょっと盛り上がるみたいな。逆に、浜益にこれが欲しいっていう意見を集めてそれに伴った募集でも良いんじゃないか。廃業した商店を復活させるような。経営のノウハウの強みを持っている人であれば、それがありますよとできるよね。

【柿岡委員】

その強みがまだないからね。

【鳴海委員】

無いけどそういうイメージが欲しいよね。的確な人材の応募数が欲しいのであれば。本当に助かるって思うよね。

【徳地委員】

助かるけど、本当に何もまとまってない、根回しもしていない状態で呼んでもね。

【鳴海委員】

なあなあでただ回って、浜益はこういうところですよって、農家です、漁師ですよって辛いよってなるよね。帰っていただけだよ。何もできないじゃないですか。ただ、馬があった人がそこに残るけどさ。

【柿岡委員】

浜ワークをつなぎに使うとしても、浜ワークの研修を週2回とか3回入ってもらって、残りの時間は自分のやりたいことにつながるものを探したりとかね。

【鳴海委員】

そのルーティン良いんじゃない。良いと思う。

【柿岡委員】

ちなみにこの、起業・就業・継業って協力隊を卒業した後の大きな出口は3つに分かれるよっていうところなんですよ。あとは辞める人もいますっていうイメージです。

【渡邊会長】

この辺の文言の整理については、事務局に任せてはどうですか。単語の幅が広い部分や、具体性に欠ける部分などを修正頂いて。

【事務局】

今後9月から募集を始めるにあたって、ある程度原案をまとめておきたいなと考えていまして、

ご意見のありました、資料の中の卒業後の「選択肢のイメージ」を消したうえで、「浜益で困っている内容」という部分の中に、まったく今準備ができておらず、あったらいいなというような夢物語となるものに関しては削除して、サポート体制として浜ワークさんがいて、地域との繋ぎも含めてお願いをする。「地域資源を活用」の中に謳っている「起業・就業・継業へ向けて」というところを削除して、「得意分野で発揮！」というのは経験や資格を生かした活動というところまで留めておいて、実際に活動のサイクルとしては、浜益で地域資源を活用する活動を3日程度、得意分野で発揮していただく活動として、やりたいと形にする活動を2日のようなペースで、最初のうちは進めていくというサイクルをイメージということでよろしいですか。

【徳地委員】

本人次第だけど。最初のうちはそのイメージで。

【鳴海委員】

働き手が欲しいわけじゃないでしょ。

【柿岡委員】

働くことによって、地域の人々と繋がっていただく。

【渡邊会長】

起業・就業・継業を無くすんですか。

【事務局】

起業・就業・継業へというイメージはしっかり持っていなきゃいけないんですけど、ミッションとするには、まだ何も準備できていない状態で、そこに人を呼び込むことになってしまうのは無責任なので、ミッションに書かずに現実的な内容をミッションにしていくイメージです。

【鳴海委員】

だけど、消しすぎるとただの人が欲しいだけになっちゃうから、それはある程度何かしっかりしたものがないといけないと思います。

【事務局】

先ほど柿岡委員からご意見を頂いたように、浜益で困っていることがこれだけあって、選択肢としてありますよ。単語の幅についてより具体的に謳っていくような形に変えたうえで、現実的な取り組みを始めていけるようなミッションの形に変えた方が良いのかなと思っています。

今回募集する雇用形態は、市の会計年度任用職員として、浜ワークには地域とのつながりをサポートしていただく形をイメージしているんですけど、今その中で現実的に活動を用意できるのは、一次産業の働き手不足がメインになるのかなと思っていますが、地域課題を知っておいてもらったうえで、活動のイメージがわくようであれば課題の解決に取り組んでいただくということで、地域課題を浜益の困りごととして提示した方が良いのかなと思うのですがいかがでしょうか。

【渡邊会長】

今、事務局から説明があったような中身で進めてもらって良いですか。

【柿岡委員】

具体的に、果樹とかピーマンとかって言っていたけど、具体的にするのであれば、その関係の方々にしっかり説明と了承を得ておかないと、応募者が出てきたときに困ると思うので、根拠を持った具体性に気を付けて情報公開をしていただければと思います。

【事務局】

はい。あくまで例示なので、具体的に謳うにはきちんと準備をします。情報についてもいただいた意見を基に気を付けて提供するようにいたします。

【鳴海委員】

募集までは、説明あった通りで良いと思うよ。シカ被害があるからハンターも担い手居ないし。

【事務局】

ただ、ハンターのなり手がいないけど、それだけでは生活していけない状況なので。

【鳴海委員】

だから、そのサポートをするのが必要でしょ。浜ワークで研修的に働くことから繋がって、飲食店とか、ジビエ料理とかというのは、応募してきた人の考えによって変わるよね。それを使って浜益で店を出したいとかっていうのは。

【事務局】

これまで、シカ肉の加工場があればとか、

【鳴海委員】

そう。だからそれをするのに浜ワーク経由で、とりあえず地域の人と関係を作りながら、目標に

向かって行くっていうイメージなのかなと。だから、漁師の担い手欲しいとか、農家の担い手が欲しいって謳っても全然良いと思う。

【柿岡委員】

地域資源を活用イコール地域課題の解決を一つのミッションとして、その中で、私たちの地域では、こういう地域課題がありますと、それに取り組みたいと感じて活動するのも良いですみたいなイメージだと思います。

【事務局】

そうですね。地域資源だと具体性が無い感じで、逆に地域課題としてとらえてもらう方が、困っていることがこれで、地域のために活動する感じになりますね。

【鳴海委員】

その方が良い人材が来そうな感じがします。

【柿岡委員】

たくさん課題を解決してくれる人がくると助かるよね。

【鳴海委員】

足りないものを補って欲しいよね。

【柿岡委員】

地域をおこす協力をする人みたいな形でまとめてくれれば良いと思います。

【鳴海委員】

なあなあで募集して結局辛いからやめますとか違うなと思って。やりたいことができないとかだと、雇用する側の責任も問われると思うので、ただ呼び込んで、地域と関わらせて、浜益きついですってなったら元も子もないからさ。

【柿岡委員】

実際にそういう事例もあるからね。使いつぶされて終わったりとか。

【鳴海委員】

あると思うけど、そういうのはやめて、きちんとした目的があって協力隊になりますって。あとは、浜益のみんなが協力しないとだめでしょ。

【柿岡委員】

あくまで労働力ということじゃなくて、地域の情報を知るための手段として出面に行ったりとか。

【鳴海委員】

そうそう。浜益で生活していくためのことに関係していけばいいんじゃないかな。

【柿岡委員】

道が選べないようなことは無いような表現にしないと。

【鳴海委員】

人が少ないからって使いつぶされてもおかしくなるから。

【柿岡委員】

お互いの情報を共通認識を持って

【鳴海委員】

そうそう、本当はこうしたいのになって本人が思うでしょ。これをしたくて来たのに、その後で別にやらなきゃならないことがあるのはしんどいと思うからさ。以上です。

【事務局】

貴重なご意見ありがとうございます。修正に反映します。

【渡邊会長】

要するに浜益に残ってくれるような活動をしてもらって、将来的には起業でも就業でも継業でも良いし、浜益に残ってもらえるような活動をしてもらうのが一番だと思います。そのために、浜ワークの力も借りながら、人とのつながりを作るために仕事を経験してもらったりとかということでやって行ければと思いますけど。あとは募集のミッション案については、協議内容を反映した内容に事務局で修正してもらうことでよろしいですね。

— 一同了承 —

5 その他

【渡邊会長】

それでは次にその他に入ります。皆さんからこの場で連絡事項や話題提供等がございましたらお願いします。

【徳地委員】

熱中症の避難場所が浜益に無いんですよね。他の地域にはあって浜益には無いんですよ。きらりの和室とかにクーラーを設置できないのかなということなのですが、本当は中学校の部活動できらりの大ホールを使っているから、ホールに冷房を入れて欲しいけど大きいので設置は厳しいかと思い、和室とか図書館、図書館も吹き抜けがあるので効率が悪いかなと思いますが、本当は図書館スペースに入れて欲しいと思っています。昨日も今日もかなり暑かったので涼めるところを設置して欲しいと思いますね。

【柿崎課長】

実際に今は、エアコンが設置されている施設が無く、新年度予算要求の時にそういった声が上がるといことで、広聴・市民生活課に予算要求を打診している最中です。

【渡邊会長】

今の回答でよろしいですか。それでは他にありませんか。

【笹森委員】

診療所の事なんですけど、住民の方で診療所の診察時間が月曜日から金曜日までは、高下先生がいて、土日は他の先生が来ているのが現在だと思うんですが、住民の方の中には、土日は先生がおらず受付していないとか、夜看護師さんに電話したら受診できるでしょのような、誤った認識を持っている方がいて、診療所の診療時間等の正しい情報を何回か伝えたほうが良いんじゃないかなと思います。

知っている人は知っているけど、きちんと理解していない人もいるので、知らせる方法って何かないですか。

【渡邊委員】

区民カレンダーに入れちゃえばいいんじゃないですか。

【伊藤課長】

診療所通信の第一号にて、診療時間の変更等はお知らせしていますが、伝わっていない人がいらっしやるということですね。改めて、診療所通信でもお知らせしていきたいと思います。

【徳地委員】

以前の診療所通信を読んでいない人がいるから、通信出しても読まない人だと思います。

【高橋支所長】

前回見ていない人も、今後の通信は見るかもしれないので。

【徳地委員】

通信は出し続けつつ、更に加えて住民の目につくような方法を考えた方が良いと思います。

【伊藤課長】

公共施設等に掲示するポスターを作って、掲示する場所については考えさせていただき、広報誌の回覧の二本立てで取り組んでみたいと思います。

【渡邊会長】

あとは、知っている方が他の住民から聞かれたら伝えていくこともやっていきましょう。他にありませんか。

【鳴海委員】

漁協青年部長の鳴海です。みなと祭りを無事終えることができました。皆様のご協力ありがとうございました。

【渡邊会長】

わかもん会の七夕祭りもお疲れさまでした。

【徳地委員】

ご協力いただいたみなさんありがとうございました。

【事務局】

9月15日に、今年のふるさと祭りを実施しますので、皆様のご協力をどうぞよろしくお願いいたします。昨年好評だったティラノレースを今年も企画しているそうです。

【徳地委員】

一応、形を変えて行う予定です。

【川村集落支援員】

まず初めに、地域課題に関して集落支援員の立場から現状の報告をします。

私のミッションの中に、消えゆく浜益の伝統、文化、風土、風習を後世に伝えていくという任務があります。放っておくと消えていきそうなもの、もう消えてしまったものがたくさんあります。

例えば地域ごとのお祭り、高齢者の集い、敬老行事、お年寄りが持っている漬物文化だとか、地域の食材を活かした伝統、飯鮓し等もこのままだと消えてゆくと思います。実際にしめ縄づくりと竹かご作りについては映像として保存することができました。なかなか、普段から手を付けにくい部分は記録映像とか文字情報としていくんだと思います。そういう一環で、浜益の荘内藩ハマシケ陣屋プロジェクトに加わらせていただいています。できれば、小中学生にも自分の生まれ育った地域の伝統、歴史というところで認識をして巣立って行ってもらいたいと思っています。荘内藩陣屋研究会が後世に伝える活動に取り組んでいますが、中心メンバーの平均年齢は75歳です。今後の陣屋跡の草刈り活動等について、可能な限り外の人と繋がって、研究や陣屋跡の維持等に協力できる人を集めて持続していきたいという思いが陣屋研究会の中にあるということで、資料の説明に入らせていただきます。

資料のプロジェクトについて、おかげさまで大変盛り上がっております。

特別展を6月18日から7月8日まで道の駅石狩「あいろーど厚田」で行いました。今回、工夫したことが3つあります。

1つは映像を流すこと。もう1つは、学校との繋がりということで、今回、浜益中学校の絶大なご支援をいただきまして、今、浜益支所1階のロビーに展示してあります巨大な絵図、これをお借りして展示することができました。もう1つは中学生に陣屋に対する質問をくださいとお願いしまして、校長先生のご協力を得て質問を寄せていただきました。この3つで、相当な方が大きな反応を示したことをご報告します。

資料に戻りまして、取り組みの第1弾としてギャラリートーク、展示の解説と、陣屋に連れてきて歩いてもらう企画を行いました。昨年にも実施いたしましたが、昨年を上回る43名が参加し、旧石狩市からバスに乗ってきた方が24名でいらっしゃいました。現地で解説案内を行いました。今回の取り組みには、浜益観光まちづくり推進協議会の強力なサポートを得て何とか乗り切ることができました。

反響として、道の駅から荘内藩ハマシケ陣屋跡に関する特別展や、常設可能な場所を提供するので展示しませんかというご提案を頂きました。

アンケート結果についてまとめておりますが、特に一番下の部分、様々な機会にこのような企画に参加をしていますが、無料でやるのはおかしいんじゃないか。2千円ぐらい取っても良いんじゃないかというお言葉をいただきました。

陣屋研究会も、人材難の課題がありますが、財政難でもあります。会費が集まるのは年間で1人千円×10人ちょっとぐらいしか会費がないんです。その中で様々な経費を賄っています。

企画は非常に大成功でした。そして、残念ながら雨天中止となってしまったのは、道の駅での川下八幡神楽の披露が中止となりました。

プロジェクトについて10月に第2弾があります。松本十郎と浜益の絆のトークイベントを、石狩市民図書館と札幌の紀伊国屋書店で行います。中身は佐藤睦会長が陣屋について語ることと、山形県人会の安達さんが松本十郎に非常に造詣が深く、この方にも語っていただいて、石狩市の文化財課の工藤さんがコーディネーターしながらトークを展開する企画です。浜益以外の外向けに発信をしていく企画です。

去年、プロジェクトが動き出してから色々なところから反響が大きく、陣屋跡を訪れる方が増えています。6月22日には札幌国際大学の遊佐先生が学生さんとともに訪れ、7月8日には渡辺千秋さんが20名ほどの方を連れてきて、6月23日には浜益の高齢者のはまなす学園が29名来ています。これから先も、9月18日に北広島から20名、10月には今回のプロジェクトで交流がありました白老の仙台藩陣屋資料館友の会のガイドの方達が高校生を連れて20名くらいで来るということが決まっています。まだ確定ではありませんが、札幌山形県人会の皆様が芋煮会を浜益で行いたい、陣屋跡を見てみたいとの要望も来ています。

最後、報告とはちょっとずれますが、先日7月28日に、仙台藩の白老の陣屋で蝦夷地の陣屋が全部で22カ所あるのですが、その関係者14名を一挙に集めたシンポジウムを行うという、初めてのプロジェクトがありました。この中で、教育委員会の菊地社会教育主事が発表を行いました。菊地さんが陣屋に携わり始めた時はジャングルのようなだったことや、民間団体というか地域住民のここまでの取り組みに大きな反響を得て、仙台藩陣屋メンバーのこれからの訪問につながっています。私からは以上です。

【渡邊会長】

そのほかにございませんか。無いようですね。

6 次回の開催日程について

【渡邊会長】

それでは、次回協議会の開催日程について事務局からお願いいたします。

【木澤課長】

次回の地域協議会ですが、農業漁業等の繁忙期の様子も鑑みながら、10月もしくは11月初旬を目途に開催したいと考えております。協議を必要とする案件が発生した場合には、都度ご連絡の上、開催のご案内をさせていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

7 閉 会

【渡邊会長】

それでは、以上をもちまして第3回目の地域協議会を閉会させていただきます。長時間お疲れ様でした。

令和6年 月 日 議事録確定

石狩市浜益区地域協議会

会長 渡 邊 隆 之